

地球科学輻合ゼミナール

(2008年度 前期 第5回)のご案内

南アジアの気象災害

林 泰一
(防災研究所)

ベンガル湾では、2007年11月にサイクロン"Sidr"がバングラデシュの南海岸に上陸し、4200人の死者行方不明者がでた。引き続いて、2008年5月にはサイクロン"Nargis"が、ミャンマーの南西海岸に上陸し、死者行方不明者が13万人を超えると報道されている。これまでも、ベンガル湾のサイクロンは、バングラデシュやインドで大きな災害をもたらしてきた。このサイクロンの発生環境について述べるとともに、1991年、2007年のバングラデシュでのサイクロンによる被害の現地での被害調査をもとに、被害の実態について述べる。さらに、サイクロンに隠れて目立たないけれども、北東インドで発生するシビアローカルストームの実態についても報告する。

プレート境界巨大地震と 長周期地震動

岩田 知孝
(防災研究所)

文部科学省地震調査委員会による長期評価では、東南海地震及び南海地震の今後30年間の発生確率はそれぞれ60-70%、50%程度であり、同時発生の可能性も指摘されている。巨大地震が発生した場合には、周期数秒以上の長周期地震動が大規模堆積盆地に位置する大都市圏を襲うことは確実である。このような地震動による都市災害の軽減のため、揺れの予測の現状、最新研究成果を紹介する。

6月4日(水) 午後4:30~午後6:00

場所: 理学研究科6号館 201号室